

# 高島のまごころを すべての人へ

平成20年3月7日は、近江聖人中江藤樹先生の生誕400年を迎える日です。この佳節をきっかけに、藤樹先生の説いた「良知の心」に致ることの大切さを全国に発信します。

## 藤樹先生の生涯

1608年（慶長13）3月7日、中江藤樹先生は、近江国高島郡小川村（高島市安曇川町上小川）の中江吉次の長男として、ひととき大きなフジの老樹がはえていた家に生まれました。いまだ政情不安な江戸時代初期の頃です。9歳のとき、藤樹先生は武士であった祖父の手に引きとられて、米子へ移り住むことになりました。さらに翌年、藩主加藤貞泰の国替えにもない、少年藤樹もまた祖父母とともに伊予（愛媛県）の大洲へ行きました。そして15歳のとき、元服して知行百石取りの「大洲藩士」となり、「中江与右衛門惟命」

と名のりしました。19歳のとき、郡奉行に任せられました。将来を嘱望されていた先生でしたが、27歳の春、故郷にひとり住む老母のこと、公務にたえがたい病身にあることを理由に、上司に「辞職嘆願書」を提出しました。しかし、藩主の許可を得ることが難しいと判断した先生は、その年の秋、死罪を覚悟のうえで、にわか脱藩し小川村に帰郷しました。

浪人となった先生は、酒の小売りや薪炭の販売をしながら生計をたて、清貧の生活を送ることになりました。そして、自宅に私塾「藤樹書院」を開いて、村びとには「人としての道」を教えたり、大洲藩からやってきた武士たちには儒学（陽明学）を説いて、数多くの有益な人材を輩出しました。

1648年（慶安1）8月25日に先生が41歳で亡くなるまでの郷里における14年間は、門人や村びとに対する教育とともに、多くの著作を残しました。その代表的著書に『翁問答』『鑑草』『孝経啓蒙』などがあります。没後、その生前の徳行をたたえて「近江聖人」と呼ばれました。

## 陽明学の影響

わが国で初めて藤樹の説いた陽明学は、朱子学とちがって、修めた学問の成果を現実の生活のなかに生かすことを重視しました。

熊沢蕃山がその良き例ですが、これ以外でも、江戸後期の大坂の陽明学者大塩平八郎は、苦しんでいる庶民に対して、なんらの政策を打たない幕府を糾弾するため、「大塩の乱」を起こしました。また、幕末期明治維新の中心人物であった西郷隆盛や勝海舟もまた、若き頃に陽明学を深く修めていました。

このように陽明学は、日本の社会を大きく揺り動かす人たちの思想の原動力にもなってきました。

## 藤樹先生の教え

「父母からうけた恵みは、天よりも高く、海よりも深いほどに、とても推し量ることのできないものである。だが、普通の人間は、かえって父母からうけた恵みにまったく気がつかないでいる」（翁問答）

「すべての人間は、その身分の上や財産の多寡に関係なく、天からひとしく明德（良知）という最高の宝を与えられて、この世に生をうけたのであるから、そこに人間として

なんらの差別も存在しない。だから、人をあなどったり、いやしんだり、ことさら尊んだりする理由などは、一つとしてないのである」（孝経講釈 聞書）

「人の欠点を言い立てるのではなく、その欠点が自分にもあるかどうかと反省して、貌言視聴思の五事それぞれを正していく工夫がなによりも大切である」（書簡）

## 代表的門人

**熊沢蕃山**（1619～1691）  
京都の人。浪人時代に中江藤樹の門下に学び、陽明学を修める。のち備前岡山藩に就職し、陽明学を根本とした藩士教育、零細農民の救済、治山治水等の土木事業による農業政策の充実など、果敢な藩政改革に取り組む。近世有数の思想家。

**淵 岡山**（1617～1689）  
仙台の人。藤樹没後、京都に私塾を開いて、全国に藤樹の学問を広める。特に会津若松や喜多方地方の人々は、二百年以上にわたって岡山から受けた教えを伝えた。

**大野了佐**（1612～1688）  
大洲の人。青年時代に医者をしてろざし、藤樹のもとで覚えの悪さを乗り越えて、医学を熱心に学ぶ。藤樹の帰郷後も、小川村にやってきて医学の指導を受ける。のち宇和島で開業し、名医とたたえられる。



「胎教の心がけは、慈悲と正直を根本とし、一時的にもよこしまな心を起こしてはならない」（鑑草）



## 真筆「致良知」三大字 （藤樹書院蔵）

1741年（寛保元）、陽明学者三輪執斎先生が寄贈されたもので、藤樹先生の真筆としては代表的なものです。王陽明は「良知を致す」とよみましたが、先生は「良知に致る」とよんでいます。「人は誰でも良知と言う美しい心をもって生まれているが、多くの人は、みにくいいろいろな欲望のために美しい良知を曇らせる。わたしたちは、自分のいろいろな欲に打ち勝って、この良知を鏡のように磨き、何事もその良知のさしすに従うようにしなければならぬ。」藤樹先生は、この言葉を教えの根本とされました。



## 国史跡・藤樹書院

藤樹先生の開いた近世最古の私塾。先生の居宅に隣接して、門人や郷党の人びとによって建てられました。その当時は「会所」と呼ばれ、そのそばにフジの老樹が生えていたことから、藤樹書院と称されました。創建時の草葺き建物は、1879年（明治13）の村の大火で類焼しましたので、翌々年に仮の講堂として再建されたものです。正面の祭壇には、藤樹夫妻をはじめ、中江家の神主（儒式の位牌）がまつられています。

年中無休 見学料無料 説明あり ☎(32)4156

### 《年中行事》

- 1月11日：講書始め（鏡開きともいう。）孝経拝誦。
- 7月23日：常省祭 藤樹先生の三男、常省先生の命日。孝経拝誦。虫干し。
- 9月25日：藤樹祭 藤樹先生の命日。儒教の祭式による全国的にも大変めずらしい祭典です。